狭山市遺跡調査会報告　第11集

宮ノ越遺跡

第7次調査

1998

埼玉県狭山市遺跡調査会

狭山市遺跡調査会報告　第 11 集

宮ノ越遺跡

（みやのこし）

第7次調査

1 9 9 8

埼 玉 県 狭 山 市 遺 跡 調 査 会

序

狭山市は、関東平野のほぼ中央に位置し、埼玉県南西部に当たる武蔵野丘陵地帯にあります。

地形的には、名栗村から発して荒川に注ぐ入間川が市域の中央やや北寄りを貫流し、市街地を二分して河岸段丘を形成しています。この河岸段丘上は、概ね平坦地で畑地と武蔵野の平地林で形成されており、遺跡分布調査の結果67か所の遺跡の所在が確認されています。

昭和50年代に入り、開発に伴う宅地造成等が遺跡の所在地に多くなってきたことに対応して遺跡の保護のため発掘調査を行って記録保持を実施しているところです。本書は、平成5年に発掘調査を実施した宮ノ越遺跡の記録保存の報告書です。ここに、その成果を明らかにして広く市民各位及び研究者のご指導、ご助言を仰ぐ次第です。

最後に、遺跡の発掘調査をご快諾いただいた土地所有者、地元関係者各位に対して厚くお礼申し上げます。

平成10年3月

狭山市遺跡調査会
会　長　　野　村　甚三郎

例　　言

1. 本書は、平成5年に狭山市柏原字宮ノ越3627番地の発掘調査を実施した宮ノ越遺跡7次の調査報告書である。
2. 調査の期間は、平成5年7月29日～平成5年8月10日までである。
3. 調査の文化庁通知は、平成5年11月2日付　委保第5の1531号である。
4. 発掘調査は、浅野芳郎氏の依頼を受け、狭山市遺跡調査会が実施し、小渕良樹が担当した。
5. 本書の編集は、狭山市遺跡調査会が行った。
6. 本書の執筆は、調査担当者が行い、挿図の作成及び遺構の写真撮影は、調査担当者と中川吉子、古田充子が行った。
7. 発掘調査及び整理、本書作成の過程において下記の方々のご指導、ご助言を賜った。ここに厚く感謝の意を表す。

飯田充晴　石川久明　斎藤祐司　笹森健一　曽根原裕明　中平薫　並木隆　松本富雄
埼玉県教育局文化財保護課

目　　次

序

例　言

目　次

挿図目次

図版目次

第１章　調査の概要 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1

第２章　狭山市及び周辺遺跡の立地と環境 …… 2

第３章　宮ノ越遺跡７次の調査 …… 5
　第１節　遺跡の概要 …… 5
　第２節　調査の概要 …… 7
　第３節　遺構と遺物 …… 7

第４章　結語 …… 9

挿図目次

第１図　狭山市及び周辺の遺跡（1／50000）
第２図　周辺地形図（1／5000）
第３図　全 測 図（1／300）
第４図　第４号墓（1／30）

図版目次

図版１　石室全景
図版２　石室掘方
　　石室検出状況

組　織　表

発掘調査

狭山市遺跡調査会

会　　長　　武居　富雄（狭山市教育委員会教育長）
理　　事　　斎藤　勝治（狭山市文化財保護審議会委員長）
理　　事　　久津間利一（狭山市教育委員会教育次長）
理　　事　　水越　昭久（狭山市教育委員会社会教育担当参事）

監　　事　　高橋　彦一（狭山市文化財保護審議会委員）
監　　事　　田口　定一（狭山市会計課長）

事務局

事務局長　　牛窪　忠洋（狭山市教育委員会社会教育課長）
事 務 局　　石田　公一（狭山市教育委員会社会教育課文化財係長）
事 務 局　　石塚　和則（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）
事 務 局　　松嶌　直人（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）
調査担当　　小渕　良樹（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）

整理・報告書刊行

狭山市遺跡調査会

会　　長　　野村甚三郎（狭山市教育委員会教育長）
理　　事　　斎藤　勝治（狭山市文化財保護審議会委員長）
理　　事　　市村　春子（狭山市教育委員会生涯学習部長）
理　　事　　吉久　隆男（狭山市教育委員会生涯学習部次長）
監　　事　　高橋　彦一（狭山市文化財保護審議会委員）
監　　事　　松本　喜助（狭山市会計課長）

事務局

事務局長　　増嶋　長次（狭山市教育委員会社会教育課長）
事 務 局　　増田　俊夫（狭山市教育委員会社会教育課文化財係長）
事 務 局　　原　　肇（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）
事 務 局　　石塚　和則（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）
整理担当　　小渕　良樹（狭山市教育委員会社会教育課文化財係職員）

調査・整理参加者

石山哲也　岩川静子　各務正之　五味裕子　清水りつ子　白石明子　白石文香　中川吉子
藤田久美子　吉田充子　山﨑哲子

第1章　調査の概要

第1節　調査に至る経過

平成5年6月3日付で建設部建築指導課から教育委員会社会教育課に狭山市柏原字宮ノ越3627番地6の土地利用に関する事前協議書が送付された。当課では、埋蔵文化財包蔵地台帳と照合したところ埋蔵文化財包蔵地No.16宮ノ越遺跡に該当することが判明した。建築指導課に埋蔵文化財の包蔵地に該当し、発掘調査が必要であると連絡するとともに事業代理者あて同内容を通知し、あわせて埋蔵文化財確認調査依頼書を提出するよう指導した。平成5年6月10日に埋蔵文化財確認調査依頼書が提出された。これを受けて、平成5年6月24日に確認調査を実施した。確認調査は、バックホーを使用して、トレンチを掘削、遺構の有無の確認を行った。その結果3本掘削した内、1本のトレンチに河原石が集中している部分を検出した。これは宮ノ越1次調査で検出した墳墓と同形態を示していたので、墳墓と確定した。

確認調査の結果を平成5年6月28日付け狭教社発第108号で、事業主あて通知し、発掘調査の必要性を説明した。

平成5年6月29日付、開発事業主である浅野芳郎氏から埋蔵文化財発掘の届出が提出され、発掘調査の実施に向け協議を開始した。

平成5年7月26日に当課にて、事業主の浅野芳郎氏、代理者である大和ハウス工業株式会社と協議を実施した。文化財保護法の主旨から、今回のような共同住宅の建設は、発掘調査経費が事業主の負担となることを説明し、浅野氏の快諾を受けた。そこで、調査に至る細部について協議を行い、発掘調査は、狭山市遺跡調査会が実施し、調査期間を10日間と決定した。

平成5年7月27日に、事業主である浅野芳郎氏と狭山市遺跡調査会との間で埋蔵文化財発掘調査業務委託契約書が締結され、平成5年7月29日から発掘調査が開始された。

第2節　調査の経過

7月29日　調査器材を搬入し、テントを設営。確認調査の後、埋め戻さないでおいた遺構のプラン確認を実施。河原石が散乱しているもののなかから、明らかに動いたものを取り除いて、遺構の精査を実施。

7月30日　遺構の精査。石室の露出につとめる。

8月 2日　遺構の写真撮影。撮影終了後、平面図の作成に入る。

8月 3日　遺構平面図の作成続行。基準点の測量を実施し、公共座標、標高を設定。

8月 5日　全体測量を実施。遺構のエレベーション図作成。

8月 9日　遺構のエレベーション図作成を続行。

8月10日　石室の石をすべて除去し、掘り方を調査する。石の除去後の写真撮影。本日ですべての作業を終了し、調査を完了する。

第２章　狭山市及び周辺遺跡の立地と環境

狭山市は、埼玉県南西部に位置する人口16万人の都市である。主要交通路は、鉄路では西武新宿線、道路では国道16号線と国道299号線、国道407号線がある。市の主要産業は農業であったが、昭和37年に川越・狭山工業団地、昭和46年に狭山工業団地が造成され、現在では、工業製品出荷額が埼玉県第１位をほこる工業都市となっている。このなかで、東京環状線として機能している国道16号線が重要な位置を占めている。また、新都心新宿に約50分で行ける便利さは、東京方面への通勤圏として住宅適地となっている。

〈立地〉

埼玉県の地形は、西部の山岳地から順次標高を下げ、武蔵野台地等を経て東部の低地へと続く。中央部の台地は、山地から流れだす中小河川によって浸蝕され、多くの河岸段丘を形成している。入間川もその一つで、市内では武蔵野台地等を開析して南部の狭山市街地をのせる段丘（武蔵野台地）と、北部の広瀬・柏原地区等をのせる段丘（入間台地）を形成している。入間川の流れは、南西から北東に向いており、水富地区から開析谷の幅を徐々に広げ、川越市の落合橋付近で南東流してくる越辺川と合流する。河岸段丘は、南側で３段、北側では２段あり、上流の笹井では３段となっている。

狭山市南部では、入間川とおおむね同方向に流れる不老川に開析された地形を呈しているが、冬の渇水期には流れがなくなり、開析の度合は進んでいない。

段丘上は、ほぼ平坦であるが微地形は複雑で、入間川の流れと同方向に埋没谷がいくつかみられる。段丘崖は急傾斜を呈し、湧水が認められる所もいくつかある。遺跡は、各時代を通じてこの段丘崖に沿って認められる。

〈狭山の遺跡〉

当市には、67か所の遺跡が所在する。時代別の遺跡数は、旧石器時代４、縄文時代44、古墳時代６、奈良・平安時代41である。遺跡の大半は、入間川の両岸段丘上に立地する。（増田　他 1986）。右岸は、入間川町の市街地をのせる段と入間基地をのせる段の２段に遺跡が所在し、左岸は笹井地区では３段に所在し、他は最上段に立地する。入間川流域以外では、左岸段丘の奥にある智光山公園を水源とする小河川の両岸に11遺跡が集中している。遺跡の時代別立地状況の特色は、特に認められない。次に各時代について概観する。

旧石器時代

遺物は、表採資料で数点発見されている。森ノ上西⑮・上中原の両遺跡では、ナイフ形石器が発見されている。

平成２年に、首都圏中央連絡道路の建設に先立って根岸に所在する西久保遺跡の発掘調査が埼玉県埋蔵文化財調査事業団によって行われ、ナイフ形石器等が出土している。

縄文時代

時期別では、草創期２、早期３、前期19、中期37、後期16、晩期０である。草創期は、上広瀬上ノ原⑪・下並木の両遺跡で尖頭器が発見されている。早期は、昭和44年に調査が実施されたが今宿

遺跡⑬（小渕1987）で茅山式期の野外炉が発見されている。前期は、昭和56年調査を実施した揚櫨木遺跡で、黒浜期の住居跡を9軒検出し、多量の土器と石器が出土した。中期は、前期の揚櫨木遺跡と昭和46・56年に調査を実施した宮地遺跡⑧で住居跡61軒と敷石住居跡3軒、土壙多数を検出した。宮地遺跡では、勝坂期から加曽利EⅣ期までの時期があり、環境集落を呈している。後期は、高根遺跡の調査で堀ノ内期の包含層を検出し、多量の土器が出土している。

古墳時代

古墳群3か所と集落跡が確認されている。昭和56年に調査を実施した滝祇園遺跡（小渕1983）では、後期の鬼高期に属する住居跡を1軒検出している。古墳は、昭和53年の笹井古墳群で半地下式構造を呈するものが1基検出されている。他にも、上広瀬古墳群⑭・稲荷山公園古墳群で工事等で半地下式構造の古墳が発見されている。

昭和63年に市営住宅の立て替えに伴い遺跡の一部を発掘調査したところ、古墳5基を検出した、いずれも埋葬施設は地下に石室を構築している。石室から鉄製の直刀、鏃、刀子、ガラス製小玉、水晶製切子玉などが出土している。

奈良・平安時代

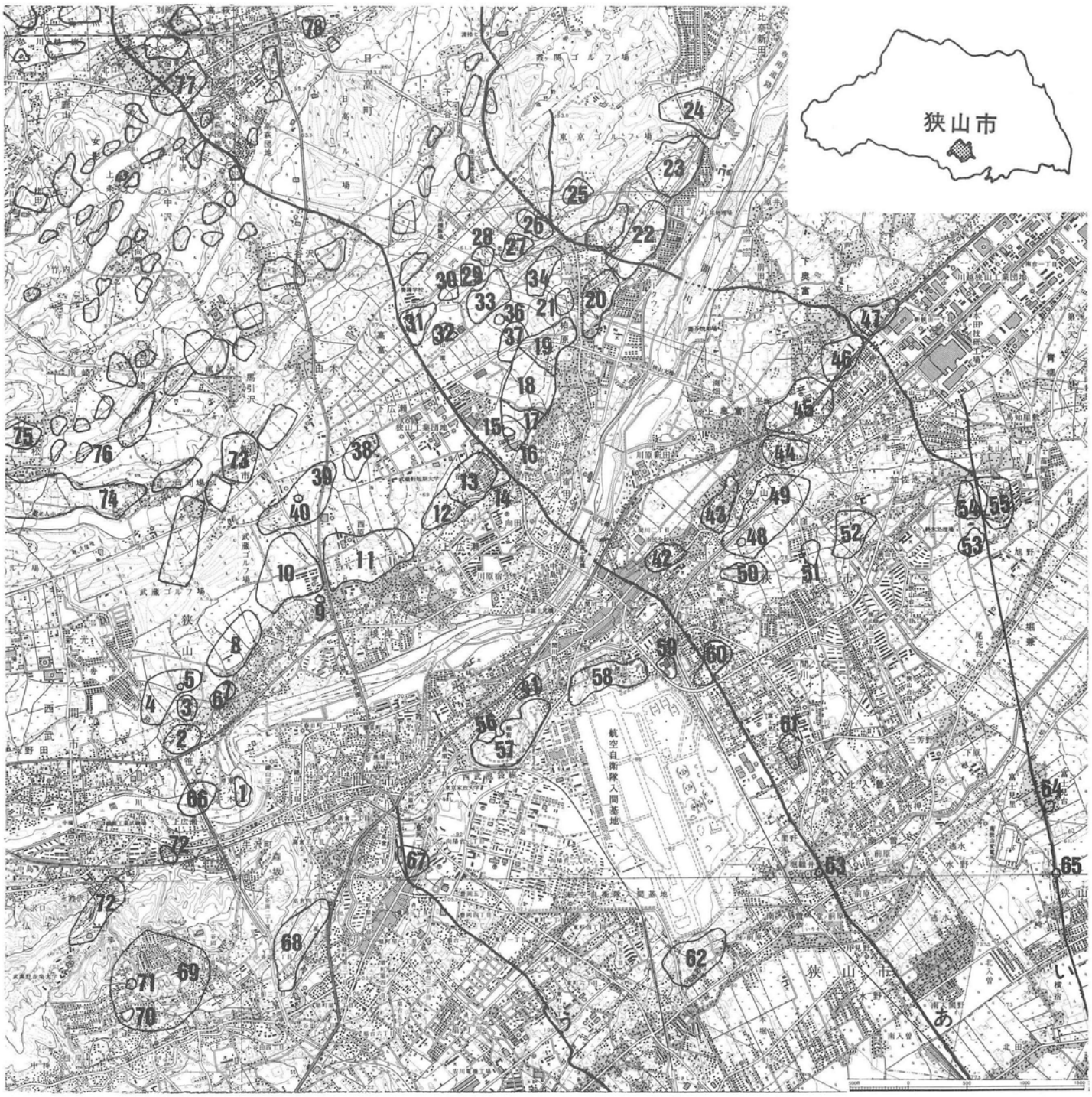
この時代は、狭山市で特に遺跡が多いところで、入間川の両岸台地上は当該期の遺跡がほとんどである。調査した遺跡も多く、宮地、上広瀬上ノ原（小渕1985）・今宿・森ノ上・富士塚⑰・小山ノ上⑲・城ノ越22（増田1978、小渕1985）・宮ノ越（駒見1982）・揚櫨木（小渕1986）・稲荷山の10遺跡がある。検出した遺構は、竪穴住居跡が254軒、掘立柱建物跡が55棟、墳墓6基である。

鎌倉時代以降

城柵関係では、入間川左岸に城山砦跡（廓の一部）が所在する。現在、土塁と堀に囲まれた一廓が遺存している。ここから上流1kmの地点には小山ノ上遺跡⑲で検出した堀が所在する。このほかには、武蔵野台地に特徴的にみられる深井戸が七曲井・堀兼之井・八軒家の井の3基所在する。七曲井は、昭和45年に発掘調査を実施してロート状の掘り方と井桁を検出、多量の陶磁器が発見されている。これらの井戸は、埼玉県教育委員会が実施した歴史の道の調査で確認された鎌倉街道に隣接しており、この街道と密接な関係がうかがえる。街道は、3本の道筋（あ～う）が確認されており、（あ）は本道として、（い）は堀兼道として位置付けられている。（あ）は、北が日高町女影付近を通り鳩山町今宿へ抜け、南は、所沢市久米から東京都府中市へと抜けている。（い）は、所沢市内で（あ）と分離して狭山市堀兼を通り、狭山市新狭山へと通じている、これらの道筋は、鎌倉時代以前の古道を整備したものともいわれており、奈良・平安時代の集落との関連が充分に考えられる。

遺跡名	遺跡名	遺跡名
1 東八木窯跡群（22049）	28 上の原東遺跡（22065）	55 台遺跡（22085）
2 八木遺跡（22068）	29 上の原西遺跡（22063）	56 稲荷山公園古墳群（22052）
3 八木北遺跡（22021）	30 半貫山遺跡（22061）	57 稲荷山公園遺跡（22051）
4 八木上遺跡（22022）	31 稲荷山遺跡（22058）	58 石無坂遺跡（22083）
5 沢口上古墳（22020）	32 前山遺跡（22059）	59 富士見西遺跡（22082）
6 笹井古墳群（22019）	33 高根遺跡（22062）	60 富士見北遺跡（22072）
7 沢口遺跡（22080）	34 町久保遺跡（22034）	61 富士見南遺跡（22081）
8 宮地遺跡（22018）	35 宮原遺跡（22017）	62 町屋道遺跡（22088）
9 金井遺跡（22071）	36 下双木遺跡（22078）	63 七曲井（22046）
10 金井上遺跡（22023）	37 上双木遺跡（22077）	64 堀兼之井（22047）
11 上広瀬上ノ原遺跡（22005）	38 上広瀬西久保遺跡（22073）	65 八軒家の井（22076）
12 霞ヶ丘遺跡（22004）	39 東久保遺跡（22070）	66 八木前遺跡（22087）
13 今宿遺跡（22002）	40 西久保遺跡（22069）	67 金堀沢遺跡（入間市）
14 上広瀬古墳群（22001）	41 上諏訪遺跡（22086）	68 坂東山遺跡（入間市）
15 森ノ上西遺跡（22079）	42 滝祇園遺跡（22066）	69 東金子窯跡群（入間市）
16 森ノ上遺跡（22008）	43 峰遺跡（22024）	70 新久窯跡群（入間市）
17 富士塚遺跡（22009）	44 戸張遺跡（22026）	71 八坂前窯跡群（入間市）
18 鳥ノ上遺跡（22010）	45 揚櫨木遺跡（22027）	72 前内出窯跡群（入間市）
19 小山ノ上遺跡（22011）	46 坂上遺跡（22029）	73 芦苅場遺跡（飯能市）
20 御所の内遺跡（22012）	47 稲荷上遺跡（22032）	74 張摩久保遺跡（飯能市）
21 英遺跡（22074）	48 上中原遺跡（22089）	75 中原遺跡（飯能市）
22 城ノ越遺跡（22013）	49 中原遺跡（22025）	76 ヤタリ遺跡（飯能市）
23 宮ノ越遺跡（22016）	50 沢台遺跡（22079）	77 若宮遺跡(女躋寺を含む)（日高町）
24 字尻遺跡（22075）	51 沢久保遺跡（22041）	78 宿東遺跡（日高町）
25 丸山遺跡（22037）	52 下向沢遺跡（22042）	あ 鎌倉街道上道（本道）
26 金井林遺跡（22035）	53 吉原遺跡（22067）	い 鎌倉街道上道（堀兼道）
27 鶴田遺跡（22044）	54 下向遺跡（22085）	う 鎌倉街道上道枝道

図中における日高町所在の遺跡は『日高町遺跡分布調査報告書』（中平1980）に、飯能市所在の遺跡は『飯能市遺跡分布地図』（曽根原1983）・『飯能・遺跡（1）』（曽根原1984）によった。なお鎌倉街道上道の道筋は埼玉県教育委員会『鎌倉街道上道』において推定されたものを記載した。



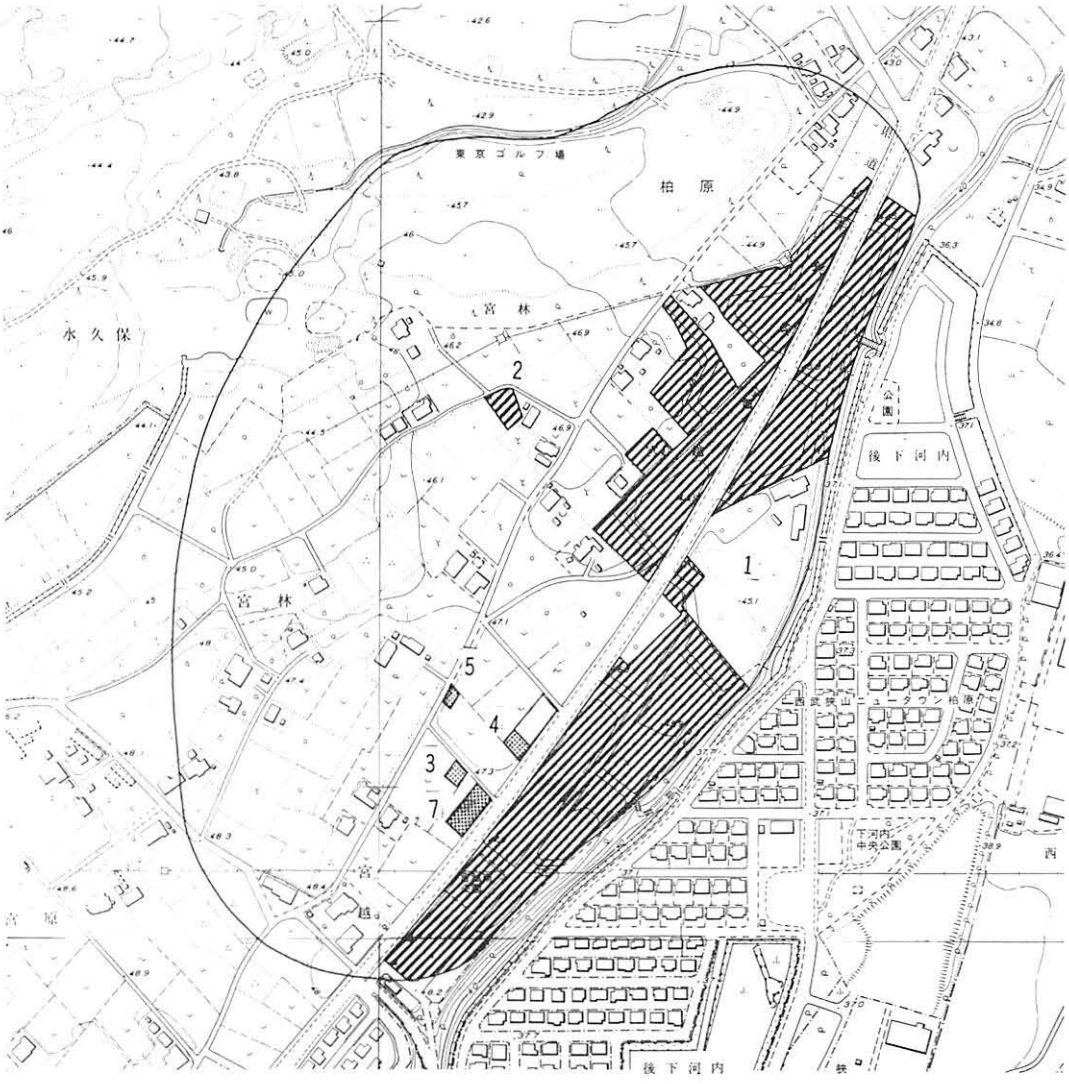
第1図　狭山市及び周辺の遺跡図（1/50000）

第3章　宮ノ越7次の調査

第1節　遺跡の概要

遺跡は、西武新宿線狭山市駅から北へ直線距離で約3.5kmの地点に所在し、入間川左岸の台地上に位置する。台地上は、南西から北東に向けて、ゆるく傾斜しているが、ほぼ平坦で起伏がない。標高は、西端が48m、東端が44mで、入間川の流れる段丘とは急崖を形成し、比高差は、10mを測る。台地の北側には、入間川とほぼ平行に谷が入り、水田耕作の適地となっている。

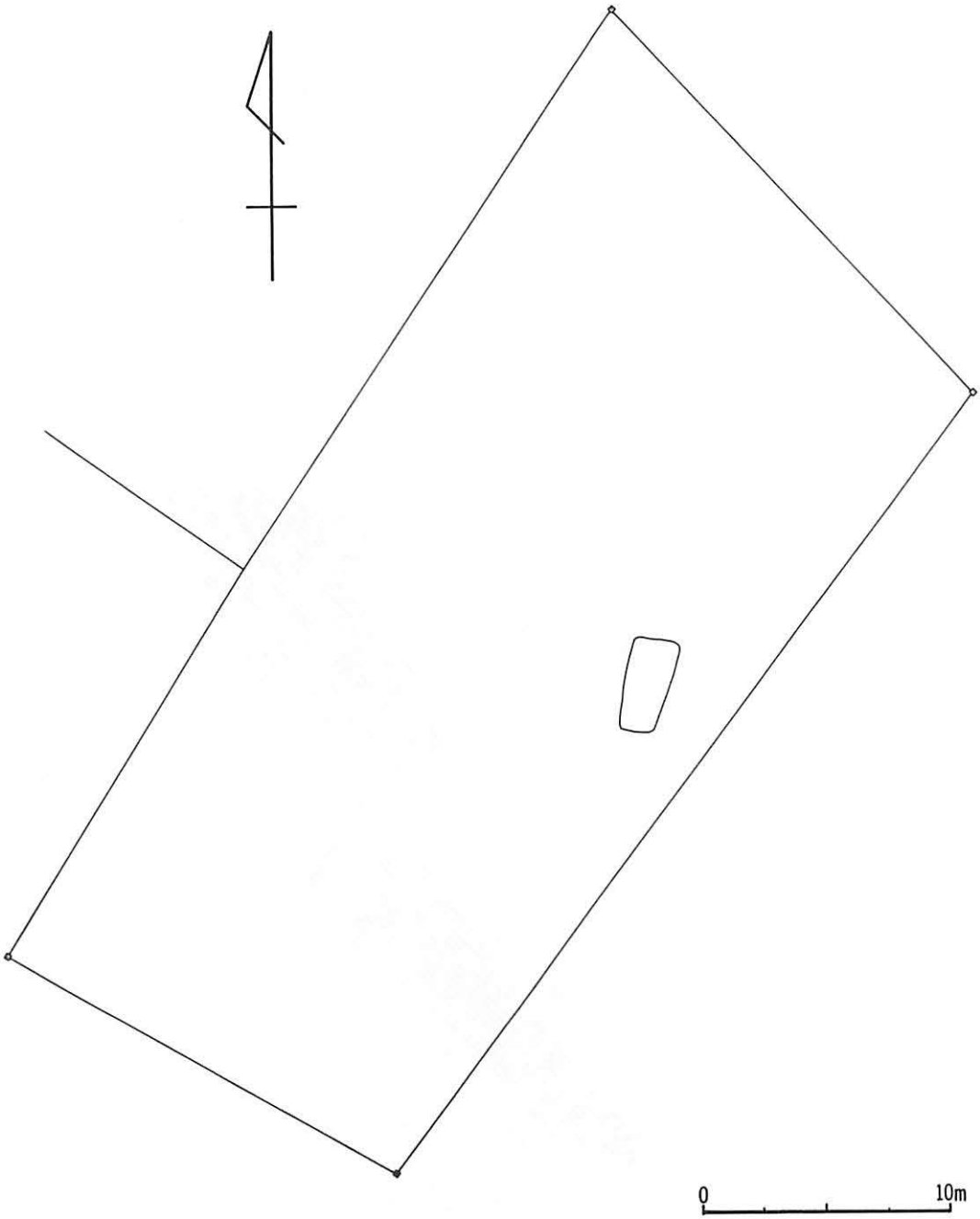
分布調査による遺跡の範囲は、台地にそって660m、奥に向けて390m、面積にして175,000㎡を測る。遺跡の性格は、奈良・平安時代の集落である。



第2図　宮ノ越遺跡周辺地形図（1／5,000）

昭和53年度に埼玉県遺跡調査会が、住宅造成に伴い発掘調査（第1次）を実施し、奈良・平安時代の竪穴住居跡65軒が検出されている（駒見1982）。

今回の調査で、遺構は、竪穴住居跡66軒、掘立柱建物跡19棟、墓跡5基、道路跡1条となった。



第3図　全測図（1／300）

第2節　調査の概要

調査区は長方形を呈し、南北39m、東西へ19m、面積741㎡の規模である。遺跡の中央部に位置し、第1次調査区とは、幅12mの県道を挟んでいる。調査は確認調査で検出した遺構の部分に限定して実施した。確認調査時のトレンチを埋め戻さずに残しておいたため、調査は遺構の精査から始められた。

検出した遺構は、墳墓跡1基である。

第3節　遺構と遺物

第4号墓（第4図）

本跡は、調査区の東端にて検出された。第1次調査の墓跡とは50m離れて所在する。調査前には、墳丘らしい地膨れはなかった。表土が20cmと浅く、耕作されていた所のため、部分的に石が抜かれており、遺存状態はあまり良くなかった。特に南側は、石の消失が著しく、基部にあたる1個だけ遺存した。しかしこの石により、全体の規模が確定できた。

本跡の構造は、石室である。ローム面を20cmも掘り下げて、長方形に区画するように石を並べ、囲まれた中に小礫を敷きつめてある。

ロームへの掘り込みの平面形態は、隅丸長方形を呈する。規模は、長辺3.78m、短辺2.06mを測る。ローム面からの深さは15cmを測る。

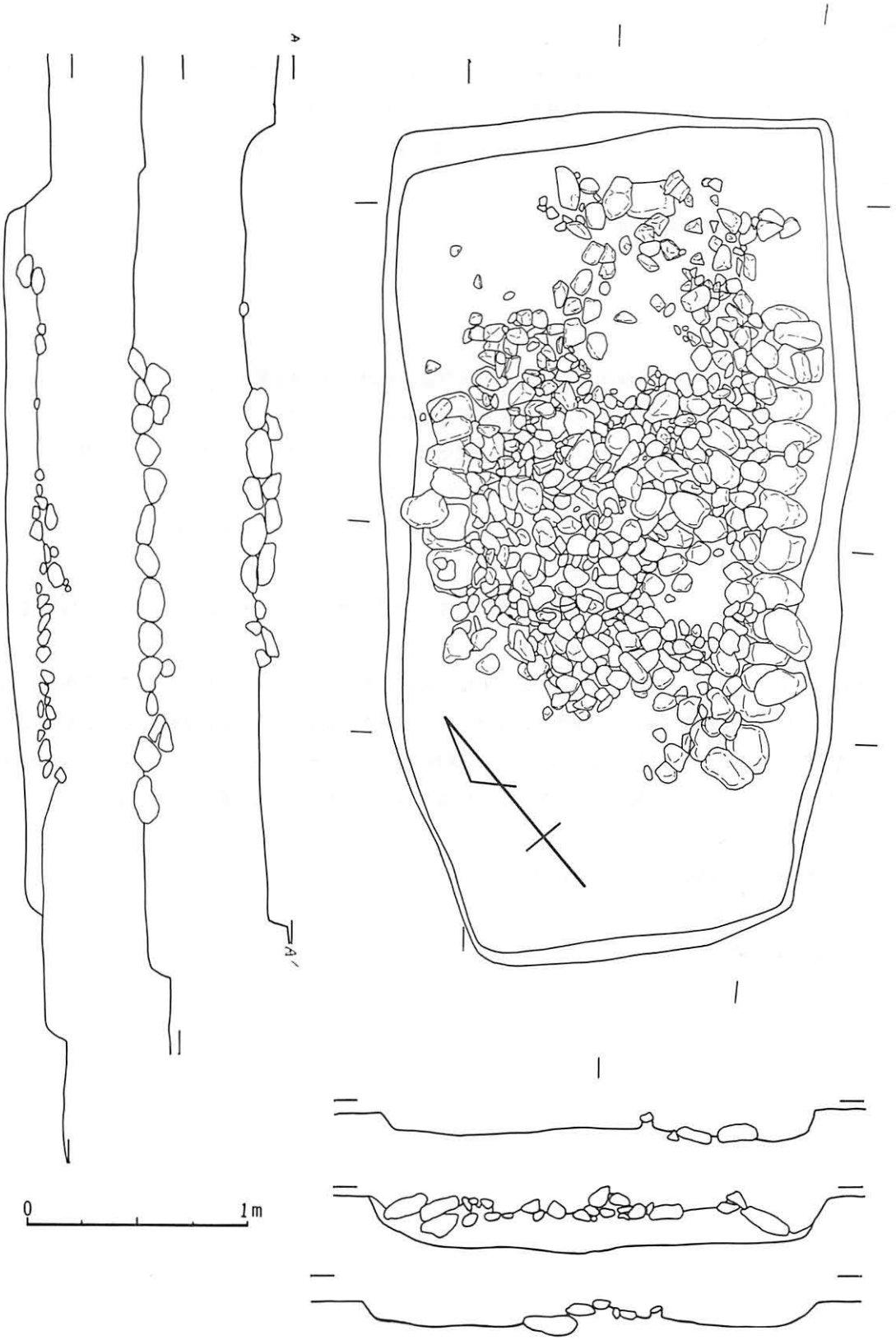
石室は、長さ2.28m、幅1.72mを測る。主軸方位は、N－40°－Eを示す。石室に使用された石は、河原石及び小砂利である。側壁は、部分的に2段目まで遺存していた。基礎部分は、平らな石を外側を低くした斜めに設置してある。この基礎石の上面が棺床面と同レベルになっている。棺床面の規模は、長さ2.43m、幅1.25mを測る。棺床面は5～8cmの小石が敷きつめられている。

天井石は、確認できなかった。

石室の周囲は、暗褐色土の土が充填されている。

周堀は検出されなかった。

出土遺物は皆無である。



第４図　第４号墓（1/30）

第4章　結　　語

宮ノ越遺跡は、昭和53・60年の発掘調査で奈良・平安時代の竪穴住居跡66軒、掘立柱建物跡19棟、墓跡4基、道路1条を検出している。第1次調査で遺跡が道路跡により東側の集落と西側の墓域とに分けられているのが判明している。

今回の調査で検出した第4号墓跡は、道路跡を挟んだ遺跡の西側の墓域に所在し、第1次調査で検出した1～3号墓と直線距離で20メートル離れている。第1次調査の3基が互いに近接して立地することから一つのグループと考えらると、4号墓は、それとは別のグループと見なすことができる。

今回の調査で検出した墓跡は、第1次調査で検出した墓と同形態である。第1次調査の報告（1982小渕）のなかで構造の特徴について記述したが、今回もこれに該当する。

① 半地下式構造

② 天井石の存在が不明

③ 石室への入口が不明

④ 周溝がない

⑤ 墳丘がない

⑥ 遺物がない

などの特徴をもっている。一見すると古墳の石室のようだが、周辺では古墳時代の集落は発見されていない。従って、当遺跡の集落に属する墳墓で時期も奈良・平安時代のものと推定される。

昭和57年に当遺跡の対岸に所在する揚櫨木遺跡の調査で土壙墓を3基検出した。3基とも長方形の土壙に棺に使われた鉄釘が多量に出土し、明らかに墓と設定できる遺構であった。中でも第1号墓は小礫で棺床面を造るとともに、棺の周囲に小礫を充填し礫廓の如き様相を呈していた。副葬品として須恵器坏があり、鉄釘と合わせて考えると平安時代の墓であることが確定される。

当遺跡の1～4基墓と比較すると埋葬施設が地下にあること、石の種類の違いが有るものの石組みであることなど共通点が認められる。従って当遺跡の墓も平安時代の墓といえよう。形態は土壙墓の変形で、石を多量に使用していることから単なる土壙墓とは一線を画して、集落内でも有力な人物の墓と考えられる。

墓の配置状況から2つのグループが考えられる。それぞれが一族の墓域と考えると当遺跡では2つの勢力があったと考えられる。

今後、調査の範囲が広がればさらにこの様な墳墓が発見されることもあり、宮ノ越の集落を考える上で重要な資料の発見が期待される。また、隣接する城ノ越遺跡の集落との関係も今後検討していかなければならないであろう。

引用・参考文献

駒見和夫　1982「宮ノ越遺跡」埼玉県遺跡調査会報告書第44集　埼玉県遺跡調査会

小渕良樹他　1986「狭山市史」原始古代資料編　狭山市

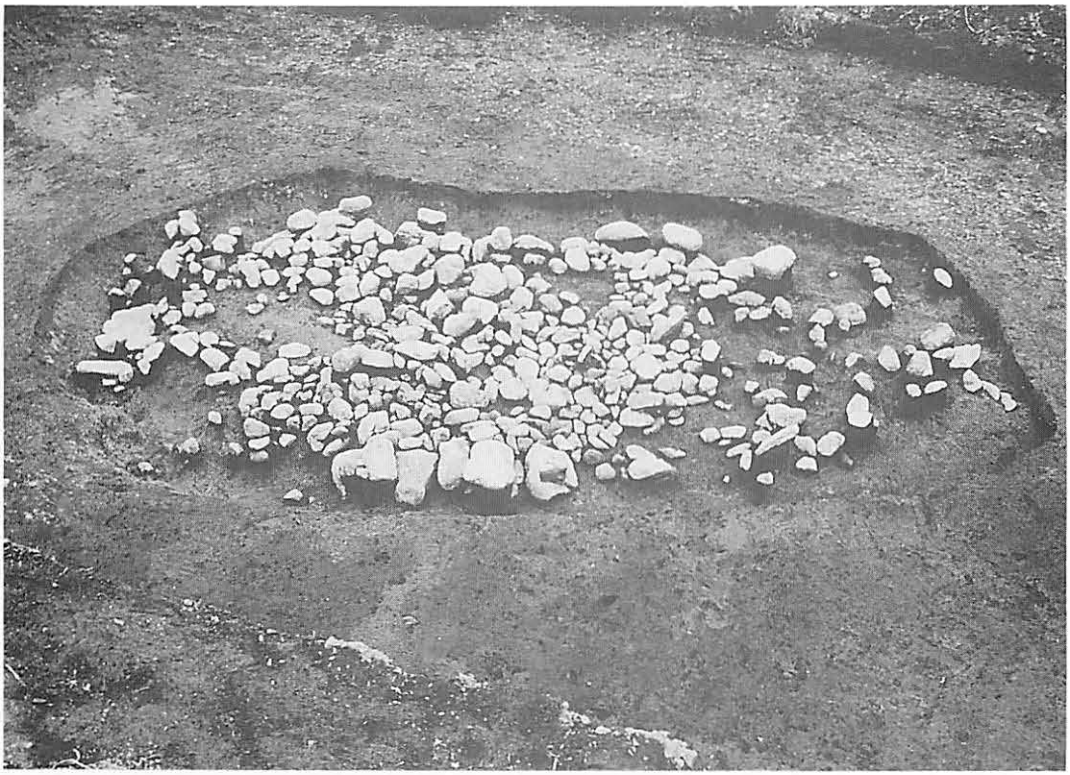
小渕直樹・仲山英樹　1986「揚櫨木遺跡」狭山市文化財報告12 狭山市教育委員会

小渕良樹　1983「笹井古墳群・八木北遺跡・滝祇園遺跡」狭山市文化財報告Ⅶ 狭山市教育委員会

小渕良樹・仲山英樹　1985「城ノ越遺跡2次・3次、上広瀬上ノ原遺跡他」狭山市文化財報告Ⅹ 狭山市教育委員会

増田正博　1978「城ノ越遺跡」城ノ越遺跡調査会

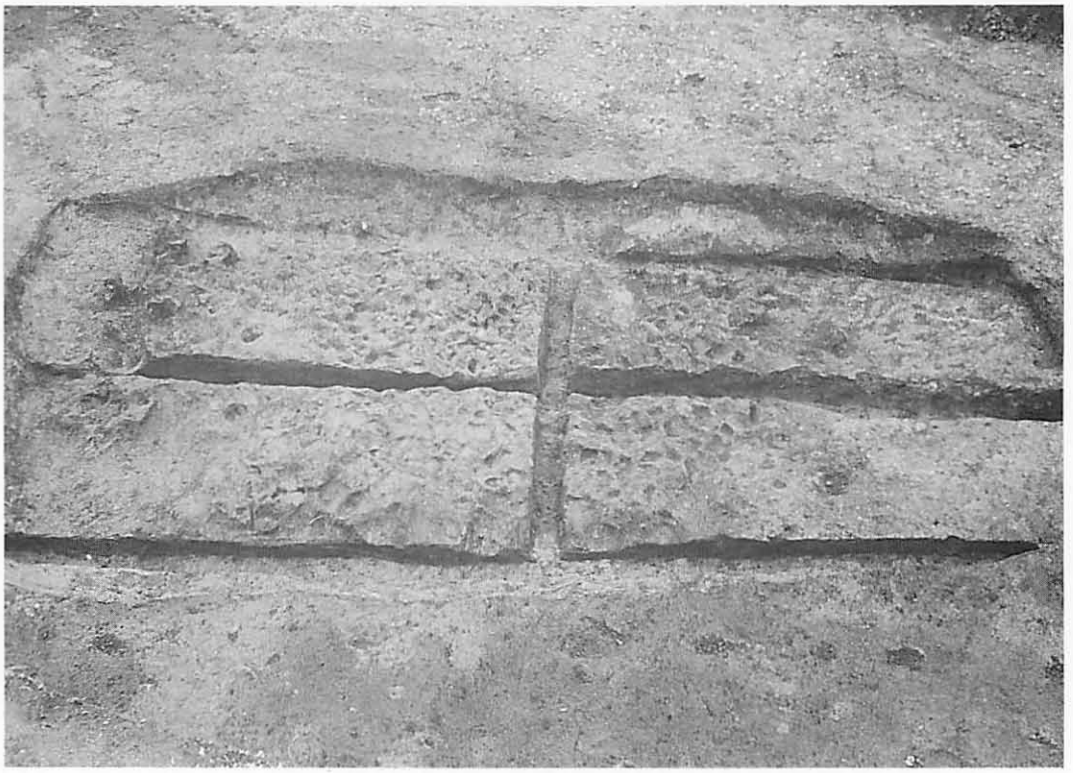
図　　版



石室全景

石室全景

図版 2



石室掘方

石室検出状況

平成10年3月25日　印刷
平成10年3月30日　発行

狭山市遺跡調査会報告　第11集
宮ノ越遺跡

発　行　埼玉県狭山市遺跡調査会
埼玉県狭山市入間川1-23-5
狭山市教育委員会内
電話　042(953)1111

印　刷　光版社印刷株式会社
埼玉県狭山市入間川3-3-3
電話　042(952)2358

【正誤表】
宮ノ越遺跡　第7次調査
（狭山市遺跡調査会報告書　第11集）

ページ	行	誤	正
4ページ	11 上広瀬上ノ原遺跡	22005	22007
	48 上中原遺跡	22089	22039
	49 中原遺跡	22025	22038
9ページ	7行目	考えらると	考えると
10ページ	4行目	小渕直樹	小渕良樹